

さいたま市大宮退職校長会

# 美術展二十周年を祝して

発行にあたって

実施委員長  
佐藤 薫

さいたま市大宮退職校長会の主な行事の一つであります美術展は、平成14年1月に故中藤喜八郎先生の米寿を祝賀するために開かれたのがその始まりであります。

墨痕鮮やかな中藤先生の書は、先生のお人柄そのものであると記憶しています。その書を披露していた、だくことに合わせ書、絵画、写真を趣味とする人々も出品し、盛大な会となったようです。

その会が毎年、美術展として開催され、令和3年で20周年を迎えることとなりました。そこで一つの区切りとして、また当時の記憶を活字に留めたいと考え、実施委員会で準備してまいり、ここに貴重な記録を載せたりフレッツを發行する運びとなりました。原稿をお寄せくださった方々

に改めて感謝申し上げます。

残念ながら令和2年度の美術展はコロナ禍のため中止となりました。しかし、美術展がこのように継続できたのは、多くの方々の支えがあったからであります。

その一つは、計画・実施、評価まで綿密な計画の本、進んでいる実施委員会の存在です。次に、一年間の趣味の集大成として多くの作品を出品してくださる同好会や個人の方がいなくては成立しません。あの人は今年はどうな作品を見せてくれるのかということも楽しみの一つです。

さらに会場に足を運んでくださる多くの方々が開催の大きな力となっています。作品の感想を述べ合ったり、旧交を温め合ったりする光景が会場のここかしこで見られることも、退職校長会の美術展ならではのことと思えます。

最後になりますが、美術展

が今後さらに出品者が増え、会場が人々であふれかえることを祈念し、発行のあいさつとします。

## 開催の記録

第1回 中藤喜八郎先生  
米寿祝賀美術展

平14・1・25〜27

会場・大宮図書館（高鼻）

出品40人・77点 参観448人

第2回 平15・3・18〜23

出品49人・86点 参観不明

※さいたま市教委後援

第3回 平16・3・23〜28

出品46人・84点 参観不明

第4回 平17・3・1〜6

出品47人・80点 参観不明

第5回 平18・3・21〜26

出品47人・86点 参観不明

第6回 平19・3・20〜25

出品46人・73点 参観不明

第7回 平20・3・11〜16

出品46人・90点 参観766人

第8回 平21・3・10〜15

出品54人・116点 参観978人

※中藤先生御逝去（94歳）

※陶芸出品

第9回 平22・3・16〜21

出品42人・94点 参観836人

第10回 平23・3・15〜20

出品46人・92点 参観501人

※第10回記念として中藤先生の遺作品6点を展示

第11回 平24・3・13〜18

出品45人・88点 参観735人

第12回 平25・2・26〜3・3

出品38人・106点 参観583人

第13回 平26・1・28〜2・2

出品41人・113点 参観709人

第14回 平27・7・20〜26

出品39人・107点 参観545人

※文芸出品

第15回 平28・1・26〜31

出品37人・102点 参観588人

第16回 平29・1・31〜2・5

出品37人・83点 参観587人

第17回 平30・2・12〜18

出品39人・109点 参観563人

※工芸出品

第18回 平31・1・8〜13

出品36人・110点 参観625人

第19回 令2・1・6〜12

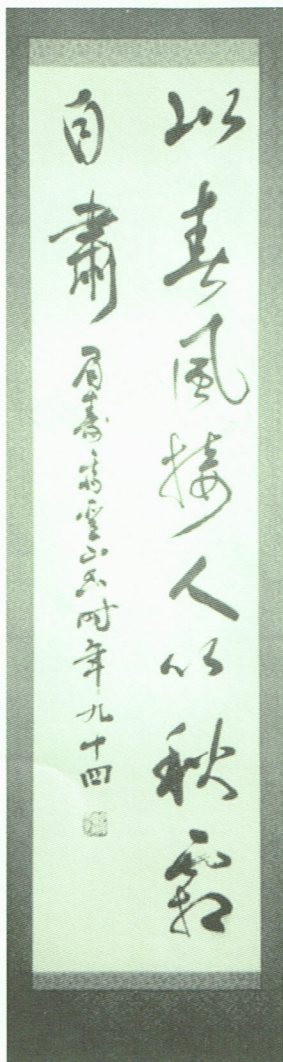
出品32人・89点 参観785人

会場・新大宮区役所内大宮図書館

第20回 コロナ禍により中止

（実施委員会及び大木忠司氏の資料により作成）

## 中藤先生第七回出品作「以春風接人以秋霜自肃」



（写真提供・大木忠司氏）



# 思い出

## あれこれ

美術展に早くから作品を出品されている方々に、美術展にまつわる懐かしいお話を伺いました。

### 会場セットの思い出

近江 宏哉

この美術展はもう二十年以上もなっていますか。第一回初日のセッティングを思い出します。

朝八時半に会場の図書館へ行ったらまだ開館していませんので北口（職員用）から入り、職員の方々に挨拶、許可を頂いてからホールに行き、物置から展示パネルを出して天井の溝にはめ込んで書道、絵画、写真室と作成したのですが古

い故かガタガタで曲がり角がスムーズに動かず苦労した思い出があります。

各部屋作りに約一時間、次に展示に一時間ほどかかりました。でも九時を過ぎると搬入される方々が手を貸して頂きましたので助かりました。

なお、中央通路際に今井先生が河童の焼物を展示されるので長卓をセット、これが大変可愛くて人気がありました。

### 慶祝・感謝

大木 忠司

美術展創設は、書道愛好会と密接に関わっています。会は昭和61年1月に発足。中藤先生を会長に、塩田禎男・小申治郎・大嶋貞雄先生方を中心に大宮市内に加え県内各地

から有志が参加しました。月例会の中藤先生のご指導は、書に寄せる情熱と造詣の深さが溢れ、会員個々には良い点、今後の課題を示し、書作意欲を高めてくださいました。

中藤先生のご指導＝大宮市美術展・県退職校長会美術展、現職の校長先生を交えての宿泊実技研修会、読売書法展・現代書道二十人展・雪心会選抜書作展の鑑賞、慈光寺・紙工房の見学、懇親会などで、

書の心を学び先輩方の経験談に豊かな時間を過ごしました。中藤先生の米寿を祝賀する記念すべき第一回美術展は、書道愛好会並びに、賛同下さった絵画・写真同好会によって開催されたのでした。

あり、出席すると先輩のお歴史が多数おられ驚いたものがある。鰻屋の2階広間で懇親会が始まり、酒宴も盛り上がりつつ来た。その内写真同好会なる名称で発足と会員募集の紙が廻って来た。発起人は大宮の大先輩の加藤文夫先生で

ある。先生は三橋中から分離独立した西中が誕生した時に教頭になられた。西中は新校舎ができるまでの間、三橋中の校舎内に併設となった。職員室は別々だが、ノックノックと巨体を揺らして廊下を通る先生とはよく鉢合わせとなり挨拶を交わしたものである。

撮影会に出かける時にはどこかで調達したのかフィルムを2〜3箱ずつ参加者に配ってくれた事もあった。

その後、さいたま市の誕生に伴い、同好会は改組して愛写会の成立へと繋がった。

### 二十周年に思う

反町 益士

二十周年を迎えるに当たり、故 中藤先生のこの会に対する深い思いと広さに改めて感謝する次第です。また、会を運営してこられた多くの諸先輩のご努力があったことを忘れることはできません。特に会場づくりや、実施期日の確保等ご苦労があった事と想います。

のです。他の方の作品から学んだり、参会者の方の批評を聞いたりして、モチーフ選びや鑑賞する眼などを養う機会を頂きました。

脳の活性化のためには多少のストレスも必要とのことで、これからも迷ったり悩んだりしながら描き続けて行きたいと思っています。

開設二十周年美術展の思い出と生きがいづくり 吉岡 由和

絵画クラブの美術展、開催当時は油絵、水彩画、水墨画等を展示作品として賑わいを呈していました。そのなかで特に参考になったのは高名な洋画家の塗師祥一郎先生を招聘して展示作品を見ていただき詳細にわたりご指導を頂いたことで、私共クラブ員にとつてかけがえのない貴重な糧となり勉強になりました。

その後も趣味として絵を描き発表する機会や場所を提供して頂いていることに感謝し、二十年の長きにわたり歴代の大宮退職校長会の会長さんを始め役員の皆様に深く敬意を表します。

私事ですが、この美術展を契機に、全国公募の展覧会である「日美展」に応募したところ入選（佳・秀作賞）・東京の赤坂コンチネンタルホテ



### 書道の部

中藤喜八郎先生  
米寿祝賀美術展

### 出品目録

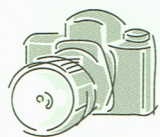
期日 平成十四年一月二十五日〜二十七日  
会場 さいたま市立おみや図書館 1F  
主催 大宮市 退職校長会

- ① 青木 英夫 緑樹重隆・人生無極帯
- ② 秋池 利治 李白詩
- ③ 新井 幸雄 寒山偈・漢詩
- ④ 石川 正明 寒山詩・四法印
- ⑤ 海老澤昭夫 割因之詩 (二)
- ⑥ 大嶋 貞雄 孟浩然詩・劉長卿詩・杜兼詩
- ⑦ 小串 治郎 王健詩・杜甫詩
- ⑧ 金子 繁雄 懸瀑布・本来無一物
- ⑨ 木内工代子 和漢朗歌集・鶴寿千歳
- ⑩ 梅頭 剛 寒山詩・朝来庭樹
- ⑪ 佐藤 英雄 菜根譚・漢詩
- ⑫ 中野 貞光 林間詠詩・竺蕪句
- ⑬ 中藤喜八郎 鐵馬の詩・赤壁の賦

### 写真の部

出品目録

- ① 青木 英夫 妙義の紅葉・養老畑
- ② 大嶋 貞雄 昔の風景(人物) (1) (2) (註)
- ③ 近江 宏哉 諏訪湖の紅葉(1)・諏訪湖の紅葉(2)
- ④ 加藤 文夫 晩秋・木枯し
- ⑤ 唐木 昭 春のささやき・私さき
- ⑥ 斎藤 信次 芦花遺墨・妙義秋景
- ⑦ 島村 昇 晩秋の彩・薫風との語らい・おもかげ
- ⑧ 進藤正次郎 彩り・木れ日
- ⑨ 関根 久治 織錦・館山港の夕景
- ⑩ 成澤 真和 かまきり
- ⑪ 長谷川 正 花の小島たち・巽立ち
- ⑫ 平川 照作 早春・春
- ⑬ 若山 法一 嵐う・お焼りなさい





- ① 成澤 嘉和 汾上露秋 ・ 嵯眉山月歌
- ② 萩原 平八 一花開天下春 ・ 春 望
- ③ 山田 宏 董其昌竹草集 ・ 錢起之詩
- ④ 故 倉持 敏夫氏 長寛 詩

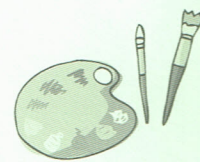
### 絵画の部

- ① 小高 博 柿 ・ 旅の里 (松屋野郎)
- ② 鈴木 光 ちかみち(井の頭) ・ ぼの
- ③ 高田 早雄 運河のある街 ・ サリーの女
- ④ 橋本 一夫 焼岳 ・ 丸山公園
- ⑤ 林 俊子 風う子どもたち (1) ・ (2)
- ⑥ 原 日出雄 風景
- ⑦ 細野 幸夫 セーヌ河畔のバリ市庁舎
- ⑧ 町田 年暮 秋の秩父盆地
- ⑨ 村井 武文 谷川新緑 ・ 浅間連盟
- ⑩ 吉岡 由和 一宮の春 ・ 万里の長城 港 ・ 晩秋

(註) 加田巖堤の校舎(七里尋常高等小学校の子供たち)ち・大田寺に建立された詩碑除幕式後講演する。清浦善吾氏

### 参考作品

- ① 松田 誠 海舟
- ② 山岡 鐵舟の書
- ③ 眉 壽 斎 (横巻)
- ④ 西郷南州の詩
- ⑤ 蔡清風宣の詩
- ⑥ 上高地宿遊の詩
- ⑦ 水亭安風
- ⑧ 瓜雪野野翁
- ⑨ 中國龍門彫造立記念碑
- ⑩ 今井 凌雪



## 「大切なことば」を心に刻んで

木内千代子

昭和62年春、定年退職して、すぐお誘いを受け、書道愛好会に入会させていた、たく。

当時は、毎月一回の例会のみであった。初めて書く条幅は不安そのものであった。

しかし、例会の都度、先輩の先生方のご指導で次々に作品は生まれていった。

文字の大小、墨つき、線の細さや太さ等々細やかなものであった。

中藤先生からは、作品を作るに当たっては、「書く前に、しっかりと構想を立てることの大切さ」をお教えた。

やがて、美術展が開催され

る時、これらのおことばは活かされた。

それと共に、もう一歩努力しようと、力を発揮し、一年毎に進歩の跡が見られるのも嬉しい。益々素晴らしい美術展になるよう祈っております。

### 伝統への期待

黒田 春海

美術展が二十周年を迎えることになりましたことに心から祝い申し上げます。

この美術展は中藤先生の米寿を記念して開催されたものですが、この美術展の初心を大事にしながら大宮退職校長会美術展として永續させるために美術展実施委員会を組織したことが思い出されます。

実施委員会の先生方の工夫

と努力のお陰で美術展十回目

を過ぎた頃には見学者が千名に迫る程盛大な美術展に発展いたしました。

十年一昔と言いますが、数の理解には20までの数が大切なのです。20になって「10ずつまとめ続ける」ことが学習

されて大きな数の理解の基盤になるからです。

美術展二十周年を迎える今、これを基盤に大宮退職校長会の伝統として今後も成長し続けますよう皆さんの努力に期待する次第です。

### 写真同好会の誕生

く愛写会前史

齋藤 信治

平成9年6月頃、北足立北部退職校長会の総会が鴻巣で

作品の中で印象に残るのは元教育長の町田先生の絵に対する誠実な態度や取りくみ方には大変勉強になりました。また会場で目にしたのは、卒業生や懐かしい人との出会いなど作品を通しての語り合う場面など多くみられました。人は皆、年々をを重ねることとは当り前のことですが、美に対する感性は大切に育ててゆきたいものと常々考えております。これからも、この会が長くつづきますよう願っております。

### 写真部のおもいで

若山 法一

第一回美術展の出品目録を見るとお世話になった方々のお名前とともにいろいろと懐かしく思い出されます。

美術展開催の趣旨は中藤先生の米寿を祝つてのものですが、先生は一日も休まず来場して接待や案内に徹していられた姿が目につきます。

### 迷いつつ悩みつつ：

でも楽しい

中野 治代

退職校長会の美術展に声をかけて頂いたのは第十回目位だったでしょうか。思えば、臆面もなく大先輩の横に飾られて平気な顔をしていた自分を今更ながらに恥じています。

仲間作り・生きがい作りのために入学したいきがい大学で、中学以来初めて絵筆を持ったのがきっかけで油絵を始めた。しかし、構図の取り方、色の見つけ方が難しく、描いた絵が上手いのか下手なのかさえ分からないという有様でした。でも、毎年発表の場があることはありがたいも

写真部については、初代会長が加藤文夫先生で、会行事の撮影会でマイカー使用は厳禁と徹底していました。那須方面の撮影会とき、会長は買ったばかりの1万円帽をかぶる。谷底へ飛ばしてしまつた事故がありました。

第二代会長は長谷川正先生で、会の名称を「愛写会」と命名した生みの親です。

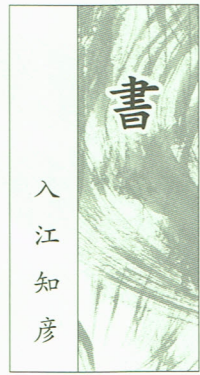
平成9年6月頃、北足立北部退職校長会の総会が鴻巣で



## 同好会紹介

### 書

入江 知彦



昭和60年に発足した書道愛好会は、今年で37年目を迎えました。現在の会員は10名。定例会は大宮小学校をお借りし、毎月第二火曜日の午後実施しています。

年度当初、毎月の課題が示され、例会には各自が条幅半切に仕上げた作品を持ち寄ります。以前は手本もありましたが現在はなく、特に制約がないので、個性豊かな作品が揃います。

各作品の書体は、行書や草書が多いが、隷書に挑戦する人も増えてきました。配字やリズム、連綿、墨継ぎ等に各々の工夫が見られ面白い。

例会では、順に作者が書作の意図を説明した後、出席した一人ひとりから、感想や意見が述べられます。合評を聞くのは、ヒヤヒヤ、ドキドキしますが、それらの一つ一つ

が的を得ていて励ましとなり、次作への意欲付けになっていきます。

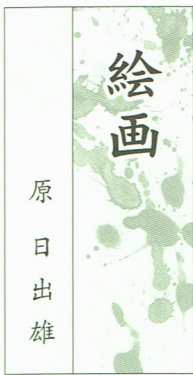
一方、「書は線であり、線は心である。この心は自分で学ばなければならない」という、書作をする人に向けた言葉があります。会での学習を活かしながら、より高い目標に向かって、自己研鑽に努めたいと思います。

愛好会は月例課題の書作を通して、筆を持つ楽しさを味わい、張りのある生活ができます。字を知ること、紙幣や酒のラベル、看板の字にも目が行くようになりました。

・書に関心をお持ちの方  
・充実した時間をお考えの方  
ご入会をお待ちしています。

### 絵画

原日出雄



故中藤先生の米寿祝賀美術展を機に発足以来、会員が自由に主題を決めて制作し、毎年開催される本会の美術展に出品することを活動の柱としてきた。先輩たちの努力のもとに積み上げてきた写真会、

作品研修会や懇親連絡会等が会員の加齢に伴う体調の関係で継続して広げられなかった。残念乍ら緻密に温かく導いて

いただいた町田先生から会長は吉岡先生に代わりました。

諸条件の重なる中で13名の会員は個々に工夫を凝らして気の合った仲間と共に写生やスケッチに現地へ、教室に通い計画的に制作に取り組んだり互いに感性を磨き合い学びを深めている。その場と機会に求められるのは人とのふれあいであり、褒めて認めてくれる人がいるということでもあり、その中に自分の存在を証する勇氣と持続力を絵画に求めるのであろう。

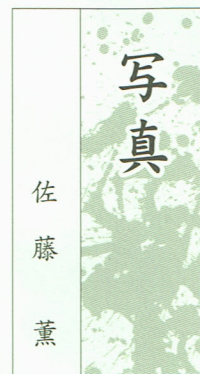
さらに、作品制作は趣味や奉仕活動の一つとして、生きがいとして生かされる。地域の福祉や公共施設、街の商店や銀行などに交代で展示し、市民に楽しみを与えることもできる。それは地域に存在している退職校長会のあるべき姿の一つとして貴重な共通体験を生かし、学校教育や世話になった地域への貢献であるう。

同好会を通して年に1度の

作品発表の場を持ち、年齢を重ねても美に対する感性、創造性を互いに磨き合い楽しんでいきたい。

### 写真

佐藤 薫



写真同好会「愛写会」の紹介に当たって、設立の経緯を書き残したいと思い、古くからの会員の近江・唐木両氏にお話を伺いました。

平成14年、中藤喜八郎先生の米寿を祝い、書・絵画・写真等の出品で美術展を開催しました。その時、写真の出品者は13名。この方々が母体となったようです。その後、マイクロバスで那須に写真撮影に出かけた際に、加藤文夫氏が「愛写会」と名付けたとのことでした。車中では撮影技術のアドバイスもあり、和気あいあいとのことでした。その後も会員数の多少の増減はあるにしろ、脈々と活動は続いています。

現在の活動は、年に3回程度の例会を大宮中部公民館を会場に行っています。ここで

は、互いに持ち寄った写真を合評したり、撮影会の計画を練ったりしています。終了後は近くでノドを潤すこともあります。撮影会は春・秋を基本に、なるべく公共交通機関を利用して、近場の豊かな自然の発見に努めています。午前中に撮影、昼食後に解散という日程で無理なく楽しんでいきます。そして年に一度の美術展は会員にとって貴重な作品の発表の場で、それに向けて1年間の活動があるようにも思います。

写真を撮るといことは、自分が何に心動かされ、何を伝えたいかの自己表現です。写真を通して様々な個性に出会えるのが楽しみです。

あとがき

「思い出あれこれ」に貴重なお話を提供してくださった方々に改めてお礼を申し上げます。

美術展20周年記念

リーフレット

発行 令和3年9月10日  
発行者 美術展実施委員会